

せいしゅ 《聖書》 ルカによる福音書 18:9-14

せい しゅ 聖書における

つみ びと り かい 罪人理解

せいしゅ なか つみびと げん
聖書の中では罪人についてたくさん言
きゅう 及されています。しかし、それを読んで
いくと、それぞれの福音書記者によって
つみびと りかい し かた ちが
罪人理解の仕方が違ってきます。

マルコによる福音書2:13-17では、イ
ちゅうせいじん てし いえ
エスが徴税人レビを弟子にし、レビの家
つみびと しゅうじ とき
で罪人たちと食事をしていた時に、ファ
はりさいは りつぽうがくしゃ ふ へい い
リサイ派の律法学者が不平を言いました。
たい き
それに対して、イエスは「わたしが来た
ただ ひと まね つみ
のは、正しい人を招くためではなく、罪
びと まね こた
人を招くためである」と答えます。

きじ よ つみびと
この記事を読んでみると、「罪人」は
つみびと ひと き こた
罪人とみなされている人を指している事
がわかります。ファリサイ派の律法学者
はみずか ただ ひと いちつ ちゅうせい
は自らを正しい人として位置付け、徴税
じん まず ひと つみびと ひと
人や貧しい人を罪人とみなして、この人
びと かみ くに はい こた かんが
々は神の国に入る事ができなと考えて
いました。しかし、イエスはこうした考
う い
えを受け入れませんでした。

ところで、この同じ話 でも、ルカに

ふくいんしゅ こた
よる福音書5:27-32では、イエスの答え
として「わたしが来たのは、正しい人
まね つみびと まね く あらた
を招くためではなく、罪人を招いて悔い改
めさせるためである」という言葉が伝え
られています。

きじ つみびと
この記事では、「罪人」はあくまでも
く あらた ひつよう ひと かんが
悔い改めを必要としている人と考えられ
ています。これはルカ福音書記者の考え
ふくいんしゅ きしや かんが
というよりも、ルカ福音書記者の属して
ふくいんしゅ きしや ぞく
いた初代教会の考えに従っていたと言え
しゅだいきょうかい かんが したが い
ます。初代教会の信仰宣言の中心は悔い
あらた よ か でんとう きょうかい
改めの呼び掛けであり、その伝統は教会
れきし なか ひ つ こた
の歴史の中に引き継がれる事になります。

きょうかい さいしゅ こた
このように、すでに教会の最初の頃で
つみびと たい りかい し かた ちが
も、罪人に対する理解の仕方が違ってい
ました。どちらが正しいかという事では
ただ こた
なく、それぞれの立場からイエスの言葉
たちば こたば
や行動を理解していった事がわかります。

こたば こうどう りかい
イエスの言葉や行動を理解するととも
したが てし しんこう せい
に、イエスに従った弟子たちの信仰も聖
しゅ とお りかい こた たいせつ
書を通して理解していく事が大切です。

つみびと たい りかい へんか わたし
「罪人」に対する理解の変化は、私たち
ひとり ひとひと こころ へんか ひとひと
一人一人の心の変化でもあります。一人
ひとり じんげん う い たい
一人の人間を受け入れていこうとする態
ど たいせつ
度こそが大切です。